キャラクター名
九条　悠陽（くじょう　ゆうひ）

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ハヌマーン	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	女
覚醒	渇望	衝動	飢餓	初期侵食率	35 %
出自	天涯孤独	経験	力の暴走	邂逅	家族

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0	2		6
感覚	2	0	0			2
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	33
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
骨の剣	白兵	6r+1	6	6		
＜蓮華・雨垂れ石を穿つ＞	白兵	1r+1		50		マイナー□骨の剣□+□形状変化：剛□、メジャー□一閃□+□爪剣□+□マシラのごとく□

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1	-	-	

合計装甲：	1	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：噂好きの友人	
コネ：情報屋	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
希望の星	P	N		
アイ	P　庇護	N　不安		
両親	P　尽力	N　隔意		
神和 弥代	P 親近感	N 不快感		
隠村 恵瑠	P　好意	N　恐怖		
マルーン	P 連帯感	N 無関心		
ロイ	P	N		

最大財産P:　4	残り財産P：　0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：ハヌマーン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：C値－LV								
骨の剣	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：素手を種別：白兵 技能：白兵 命中：－1 攻撃力：＋【Lv＋5】 ガード値：6 射程：至近に変更する								
一閃	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：全力移動を行った後白兵攻撃を行う								
爪剣	2	3	メジャー	武器	単体	対決	-	
効果：組み合わせた白兵攻撃の攻撃力を＋【Lv×2】する。このエフェクトに対するドッジの判定のダイスー1								
一迅の風	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：戦闘移動、全力移動、エンゲージからの離脱を行っていた場合攻撃力＋【Lv×2】。浸食基本値＋4								
形状変化：剛	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：攻撃力を＋【Lv×2】する。								
マシラのごとく	3	5	メジャー	-	単体	対決	80%	
効果：組み合わせた攻撃の攻撃力を＋【Lv×10】判定のダイスー5								
軽功	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：								
真偽感知	★	2	メジャー	視界	単体	自動	-	
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「あたしには正義の味方ってのも悪の親玉ってのも性に合わねぇ。それは昼でも夜でもないってことだ。だからあたしの名前は悠陽って言うんだ。」
市内の高校に通うUGNチルドレンの少女。
粗野なしぐさや荒っぽい口調ではあるが心根は優しく困っている人がいれば放ってはおけない性格。所謂ツンデレ。

戦闘スタイルは主に義父から学んだ体術を駆使した白兵攻撃。
「心と意・意と気・気と力」からなる内三合、「手と足・肘と膝・肩と股」からなる外三合を合わせた心意六合拳を使い戦う。
本来それは舞踏のような、言わば型でしかないが、ハヌマーンによる振動操作による勁とエグザイルによる肉体改造による発。
発勁としての機能、戦闘技術の在り方へと昇華している。

もとは孤児であり、とある国のスラム街で育った。
ある日、いつものように盗みを働いていた少女は捕まってしまい嬲り者にされてしまう。霞んでいく意識の中で力だけを求め欲していた。
それに呼応するかのようにオーヴァードとして覚醒。しかしその力は自分という器からあふれ周囲を破壊しつくした。
止めようとしても自分ではもうどうしようもない状況で少女を止めたのは2人のオーヴァードだった。
2人は自らが傷つくのを厭わず少女を抱きしめ、優しい言葉をかけてくれた。
これまでせき止めていたものがあふれるように涙がこぼれる。その日、少女は初めて温もりを知った。

それから10年、UGNチルドレンとして様々なことを学んだ。
言葉にするのは照れくさくて言えないけれど、あの日の手の温もりを忘れたことは一度もなかった。
そして寂しさに喘ぐ誰かに、悲しみに暮れる誰かに、無力に嘆く誰かに。今度はあたしが。